

## 事業報告

# 愛知県立大学多文化共生研究所 2021年度プロジェクト事業報告

「新旧大陸文明遭遇の光と影：  
征服500年/独立200年のメキシコから未来への提言」

愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻  
谷口智子

- 1 事業名称  
新旧大陸文明遭遇の光と影：征服500年/独立200年のメキシコから未来への提言
- 2 開催日時  
令和3年12月11日（土）14：00～17：40
- 3 実施状況  
参加人数：91名  
会場：オンライン（Zoom ウェビナー）  
主催：愛知県大学地域連携センター  
登壇者：杉山 三郎（愛知県立大学名誉教授、アリゾナ州立大学研究教授）  
レオナルド・ロペス・ルハン氏  
（メキシコ国立人類学歴史学研究所、アステカ大神殿プロジェクト団長）  
山本 太郎 氏（長崎大学 熱帯医学研究所 教授）  
大越 翼 氏（京都外国語大学 外国語学部 教授）  
白河 宗利（愛知県立芸術大学 美術学部 准教授）  
メルバ・プリーア 閣下（駐日メキシコ大使）  
司会：谷口 智子（愛知県立大学 外国語学部 教授）  
千葉 裕太（南山大学 外国語学部 講師）

実施状況：予定されていた多文化共生研究所所長の小池康弘先生の欠席以外、無事全員に一人30分（杉山先生のみ50分）の興味深い発表をしていただき、大変好評であった。公演内容は、考古学、疫病学、歴史学、美術史の専門家の立場からと、メキシコ大使の講演であった。

杉山三郎名誉教授からは、「考古学から：メキシコ古代文明史に学ぶ」というテーマで、ティオティワカンを中心に、メキシコ考古学の近年の発掘調査や研究史の発展について、およそ 50 分の講義があった。その中にはルハン博士とともに発掘したメキシコシティ中心部のテンプロマヨール神殿の発掘調査についての最新の研究報告も行われた。山本太郎教授からは、「細菌学から：新大陸における感染症を学ぶ」というテーマで、人類の出アフリカ以降の疾病史と、主にこの 500 年の間にヨーロッパ人がアメリカ大陸にもたらした天然痘と先住民人口減少についての講義があった。今日の新型コロナの世界的な広がりについては、人類が野生動物の生息領域にまで踏み込んでいる現状がその原因という見方を示された。新型コロナは地球環境を侵している人類への自然からのしっぺ返しで、人類は謙虚にならないといけないという教訓を得た。大越翼教授からは、「民族史学から：歴史の中のマヤ民族、現在（いま）、そしてこれから」というテーマで、メキシコ征服以後、500 年を生き延びているマヤ人の生存戦略について講義があった。そこでは、グローバリゼーションが征服できないローカルの知恵の重要性について示された。白河宗利准教授からは、「芸術から：メキシコ滞在期 北川民次作品の魅力—作品調査からわかったこと—」というテーマで、北川民次の使用した素材や描き方についての考察が講演された。自身もアーティストである白河氏より考察された民次の絵具の作り方など、リアリスティックな発見を聴衆に与えた。駐日メキシコ大使メルバ・プリーア閣下の講演については、「メキシコの過去、現在、未来」についての講義があり、先住民局で働かれていた閣下の博識が披露された。アンケート結果は、概ね好評であったが、スペイン語の日本語訳配信に部分的にミスがあり、事務的な運営についてお叱りがあった。今後の改善のための反省材料としたい。

#### 【講座の様子】

